



## 新年度ごあいさつ



病院事業管理者 たんのひろあき 丹野 弘晃

### 新たな地域医療構想と診療報酬改定の連動

新年度を迎え、ご挨拶を申し上げます。新年のご挨拶でも触れさせていただきましたが、診療報酬改定の中身が明らかになり、似たような表題となってしまいました。この強い連動は、単なる制度変更ではなく、地域全体の医療提供体制を再構築するための大きな転換点と捉えなければならないようです。

新たな地域医療構想は、人口減少と高齢化が進む中で、地域ごとに必要な医療機能を再編し、限られた医療資源を最適化することを目的としています。これに合わせるように今回の診療報酬改定は、制度設計だけでは医療提供体制がなかなか変わらないため、医療機関の行動変容を強く促すようになってきていると感じます。確かに、医療は理念だけでは動きませんし、もちろん金銭だけでも動きません。両者が支えあうことで初めて、地域医療が動き出し、息を吹き返すのかもしれませんが。それにしても、今回の診療報酬改定を細かく見てみると、今後の地域医療体制の方向性がちりばめられており、正直天才的な改定だと思います。

私の具体的な注目点は、医療機関機能と診療報酬改定が完璧にリンクしていることです。急性期病院とは、救急患者さんをしっかりと診察し、かつ全身麻酔手術を相当数こなしているという、大変分かりやすい数値目標が示されました。また、精神医療についても、同様な方向性が示されたと思います。裏を返せば、地域の中での患者さんの集約化を加速しなさい、との国のメッセージが読み取れます。地域全体を一つの医療・介護・福祉施設と捉える総論的な考え方を、いよいよ各論的に落とし込む時期が迫ってきたと思います。

その実現のために重要なツールとなる組織体が、当地域には既に存在しております。それが、地域医療連携推進法人「上十三まるごとネット」です。現在は5病院のみで運営しておりますが、医師会・歯科医師会・薬剤師会の先生方、介護関連の皆様、福祉関連の皆様、行政の皆様、そして患者会を含めた地域住民の皆様にも是非参加していただきたいです。表題の連動をうまく活用するためには、住民の皆様のお知恵と、現場の皆様の矜持と、行政の覚悟が、三位一体となることが必須です。そして、共に同じ方向を向いて、前進しなければなりません。当院は、上十三地域を守る急性期病院として、全職員一丸となってその役割を果たし続けなければならない存在です。本年度も、どうぞよろしく願いいたします。

## 新年度ごあいさつ



院長 すぎ 杉 た 田 じゅん 純 いち 一

新年度を迎えるにあたり、日頃より当院の運営にご理解とご協力を賜っている地域の皆さま、そして病院を支えてくださる全ての職員の皆さまに、心より感謝申し上げます。

ポストコロナによる入院患者の減少、それに伴う収益の伸び悩み、医療資源の高騰、人件費や委託業務費の増加、さらにこうした変化に十分に対応しきれない診療報酬制度など複数の要因が重なり、大学病院から小規模病院に至るまで全国的に非常に厳しい経営状況となりました。これは医療界にとって「大災害」とも言うべき事態であり、早急な対応が求められる中で、今年度の診療報酬改定を迎えることとなりました。

このような状況の中で、当院は一昨年度に計上した10億7千万円の赤字に対し、病院一丸となって入院・外来患者数の増加、手術件数の拡大、時間外勤務の削減など、多職種が連携して収支改善に取り組んでまいりました。その結果、まだ確定ではありませんが、昨年度は大幅な赤字解消が見込まれる状況となっています。特に昨年秋から始動したベッドコントロールチーム、救急強化チーム、地域連携強化チームの三つの経営改善チームによる取り組みは、迅速かつ強力で機能したと考えています。

今回の診療報酬改定では、地域医療構想の実現に向けた病床機能の明確化、急性期医療の適正化、外来機能の分化・強化、医療安全や質指標の評価の充実などが重視されています。当院においても急性期医療を担う立場として、診療の質と安全をより一層高めることが求められています。同時に、地域全体で切れ目のない医療提供体制を構築することが、これまで以上に重要となります。

この度、研修医6名を含む医師16名、看護師13名に加え、臨床検査技師、理学療法士など、多くの新しい仲間を迎えました。新社会人として医療の道を歩み始める方もいれば、これまで他の医療機関で経験を積んできた方もいます。近年は医師のみならず、看護師、薬剤師、その他の専門職においても人材確保が難しくなる中、当院が必要な人材を迎えられたことは大変心強いことです。当院は、職員がやりがいを持ち、不安や心配なく専門職として能力を発揮できるよう、教育体制の整備と心理的安全性の確保に引き続き努めてまいります。

新年度は、新たな仲間を迎え、組織としても新しい一步を踏み出す年となります。変化の多い時代だからこそ、私たちは「患者さんのために」という原点を忘れず、地域にとってなくてはならない病院であり続けたいと考えています。

今後とも、十和田市立中央病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。